

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 平泉の世界遺産登録が決定
- 8 特集 北東北インターハイがいよいよ開幕
- 12 平泉文化揺籃の地景観計画を策定
- 14 8月から受給者証・保険証などが新しくなります
- 15 妊婦一般・乳幼児健康診査費用を払い戻します
機会を逃した人も日本脳炎予防接種が可能
- 16 「春の叙勲」「危険業務従事者」—榮譽に喜びの声
- 17 国民年金保険料の免除申請はお済みですか
- 18 第2回市議会議員との懇談会
食生活改善推進員養成講座
- 19 市の出来事から
- 20 まちの話題
- 22 つながれ 広がれ NPOの輪
- 24 子そだて広場
わが家のアイドル
- 25 消費生活相談
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 26 キラリ人輝く
夢トーク
- 27 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 28 暮らしの情報
- 32 奥州遺産

〈今月の表紙〉



「えさし蔵まち市」が7月3日と4日、江刺の蔵町モールで開催されました。江刺産野菜の販売やフリーマーケットのほか、沿岸の被災地からの出店などで蔵町モールは大にぎわい。歩行者天国で行われた流し卵めん大会では、子どもたちが楽しそうにめんをすくい上げ、おいしそうに頬張っていました。定番となっているビンゴ大会も行われ、子どもも大人も笑顔を見せていました。



シフォンケーキの生地を容器に入れる百合さん

江刺区玉里にある、看板を揚げていない「菓子工房・ひなたこうぼ」。コックコートに身を包み、メレンゲを泡立てる高野百合さんは、昭和42年この地に生まれた。5歳のころ、母親に初めて作ってもらったホットケーキ。「砂糖と小麦粉だけで作った魔法の味に感激したのが、ケーキづくりに興味をもつきっかけだった」と穏やかにほほ笑む。中学・高校時代はバレーボールに熱中。現在も週に一度、ビーチボールに汗を流す。高校を卒業と同時に県外に就職。帰郷後は市役所臨時職員を経て、平成8年に結婚、男の子2人をもうける。

子育ても落ちついてきた平成14年から2年間、通信教育で学び、製菓衛生師の資格を取得。19年には、幼いころからの夢だった、菓子工房を構える。現在、毎週末に江刺ふるさと市場への出品を欠かさない。「自分の商品が完売するのを見るのが楽しみ」と頬を緩ませる。誕生日にはキャラクターのケーキの依頼をされることも多い。「喜んだ」との母親からの声は何よりの励み。「知らないケーキがあるのが悔しい。ケーキは終着点がないほど奥深い」とその魅力に目を輝かせる。

華やかなイメージのケーキづくりだが、実際は繊細で神経を使う作業が多い。「ケーキが作れるのは、夫や家族の協力のおかげ。無理をしないで、長く続けていきたい」と百合さんのケーキづくりに対する夢と情熱は続く。



11

幼いころからの夢を仕事に 独学でケーキをつくる

高野 百合さん（43歳）
江刺区藤里字野



たかの・ゆり◎昭和42年江刺区玉里中嶋生まれ。菓子工房ひなたこうぼ店主。夫、長男、次男、儀父母の6人家族